

【業績集】

1. 書籍、雑誌

西村立也:局所投与に用いるステロイド薬の種類と実際の使い分け, 臨床整形外科 できる整形外科医になる, 2023;58:548-550

2. 学術論文

若林時夫, 方堂裕治, 熊井達男, 代田幸博, 今井哲也, 上田善道:十二指腸乳頭部腺筋腫症性過形成に併発した上皮内癌の1例, 日本消化器病学会雑誌 2023; 120(4): 355-363. DOI: 10.11405/nisshoshi.120.355

竹内正勇, 鍛冶恭介, 高島一郎, 大野健次, 土山寿志, 代田幸博, 山口泰志, 魚谷知佳, 羽柴厚:対策型胃がん内視鏡検診における ICT を活用したネットワーク型画像チェックシステムの構築～内視鏡検診受診者の不利益減少を目指して～, 日本消化器がん検診学会雑誌 2023; 61(3): 319-329

Yuhei Fujisawa, Yukihiro Shiota, Tokio Wakabayashi: Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Presenting as Steroid-Responsive Sclerosing Cholangitis and Cholecystitis: A Rare Case Report, American Journal of Case Reports, 2023; 20(24): e940990. DOI: 10.12659/AJCR.94099

Yuhei Fujisawa, Tatsuhito Miyanaga, Akari Takeji, Yukihiro Shiota, Yoshimichi Ueda: A Lethal Combination: Legionnaires' Disease Complicated by Rhabdomyolysis, Acute Kidney Injury, and Non-Occlusive Mesenteric Ischemia, American Journal of Case Reports, 2023; 24(24): e940792. DOI: 10.12659/AJCR.940792

Daichi Yomogida, Yuhei Fujisawa, Akari Takeji, Yasuhito Takeda, Yoshiharu Tomita and Yukihiro Shiota: Endoscopic clip-induced acute appendicitis in a patient on chronic hemodialysis: a case report with literature review, Renal Replacement Therapy 2023; 9(52). DOI: 10.1186/s41100-023-00505-z

若林時夫, 代田幸博, 龍澤泰彦, 上田善道:十二指腸乳頭炎による画像変化が診断の契機となった十二指腸乳頭部平坦状上皮内癌の1例, 胆道 2023; 37(4): 904-911. DOI: <https://doi.org/10.11210/tando.37.904>

竹内正勇, 鍛冶恭介, 高島一郎, 大野健次, 土山寿志, 代田幸博, 山口泰志, 魚知佳, 羽柴厚:対策型胃がん内視鏡検診における ICT を活用したネットワーク型画像チェックシステムの構築

～内視鏡検診受診者の不利益減少を目指して～, 日本消化器がん検診学会雑誌 2023; 61(3): 319-329. DOI: <https://doi.org/10.11404/jsgcs.61.319>

若林時夫, 代田幸博, 吉江雄一, 富田剛治, 上田善道: 膵粘液嚢胞性腫瘍と鑑別困難であった膵 simple mucinous cyst の 1 切除例, 膵臓 2024; 39(1): 63-71. DOI: <https://doi.org/10.2958/suizo.39.63>

西江緑, 小林顕, 白尾裕: 眼内レンズ強膜内固定後にハプティックの露出により感染性眼内炎を生じたと思われる一例, あたらしい眼科__2024; 41(3): 345-348

Fujisawa Y, Miyanaga T, Takeji A, Shirota Y, Ueda Y. A Lethal Combination: Legionnaires' Disease Complicated by Rhabdomyolysis, Acute Kidney Injury, and Non-Occlusive Mesenteric Ischemia. Am J Case Rep. 2023 Sep 24;24:e940792. doi: 10.12659/AJCR.940792. PMID: 37742066; PMCID: PMC10534166.

・ Fujisawa Y, Shirota Y, Wakabayashi T. Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Presenting as Steroid-Responsive Sclerosing Cholangitis and Cholecystitis: A Rare Case Report. Am J Case Rep. 2023 Sep 20;24:e940990. doi: 10.12659/AJCR.940990. PMID: 37726949; PMCID: PMC10519640.

・ Fujisawa Y, Mizushima I, Suzuki Y, Kawano M. Nephrolithiasis and/or nephrocalcinosis is significantly related to renal dysfunction in patients with primary Sjögren's syndrome. Mod Rheumatol. 2024 Feb 26;34(2):376-381. doi: 10.1093/mr/road023. PMID: 36823314.

・ Daichi Yomogida, Yuhei Fujisawa, Akari Takeji, Yasuhito Takeda, Yoshiharu Tomita, Yukihiro Shirota. Endoscopic clip-induced acute appendicitis in a patient on chronic hemodialysis: a case report with literature review
Renal Replacement Therapy 2023 9:52

3. 学会・研究会・講演会演者

石井健夫(発表): 高齢夜間頻尿患者の睡眠生活指導, 日本泌尿器科学会北陸地方会, 令和 5 年 11 月 18 日, 金沢.

大江康太郎(発表): 心嚢穿刺～当院での工夫, 第 250 回日本内科学会北陸地方会、令和 5 年 6 月、金沢市.

大江康太郎(発表): 穿刺直前の CT を活用した心嚢穿刺(消しゴム法)、第 146 回日本循環器学会北陸地方会、令和 5 年 6 月、金沢市.

大江康太郎(発表): 穿刺直前の CT を活用した心嚢穿刺(消しゴム法)、第 71 回日本心臓病学会学術集会、令和 5 年 9 月、東京都.

川北整(発表), 岸谷都:転倒を主たる要因とした大腿骨近位部骨折, それを対象とした二次性骨折予防継続管理料新設における当院の取り組み, 日本転倒予防学会第10回学術集会, 令和5年10月8日, 京都市.

代田幸博(発表), 山下竜也, 若林時夫, 竹田康人, 方堂祐治, 山下太郎:S6 肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術後の横隔膜欠損部に8年後嵌頓して発症した結腸イレウスの一例, 日本消化器病学会北陸支部 第135回支部例会, 令和5年6月4日, 富山県富山市.

方堂祐治(発表), 竹田康人, 代田幸博, 若林時夫:内視鏡的粘膜下層剥離術後の出血に対するポンプラザンの効果, 第120回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 令和5年6月25日, 富山県富山市.

大野健次, 高島一郎, 土山寿志, 木下淳, 代田幸博, 崎川能考, 小浦隆義, 山口泰志, 竹内正勇, 魚谷知佳, 鍛冶恭介:金沢市におけるICTを用いた胃内視鏡検診の現状(第2報), 第62回日本消化器がん検診学会総会, 令和5年6月30日~7月2日, 宮城県仙台市.

小浦隆義(発表), 高島一郎, 大野健次, 土山寿志, 代田幸博, 木下淳, 山口泰志, 大野秀棋, 鍛冶恭介:金沢市内視鏡検診における *Helicobacter pylori* (Hp)陰性時代の胃がん発見率の推移, JDDW 2023 KOBE, 令和5年11月2日, 兵庫県神戸市.

吉江 雄一(発表), 代田幸博, 上田 善道:診断に難渋した胆管周囲付属器腺由来と推察された肝外胆管癌の1例, 第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 令和5年9月15日~17日, 徳島県徳島市

代田幸博(発表), 竹田康人, 方堂祐治, 若林時夫:胆管周囲付属腺から発生し, 同 network を介して進展したと考えられる平坦浸潤型肝外胆管癌の一剖検例, 日本消化器病学会北陸支部 第136回支部例会, 令和5年10月22日, 石川県金沢市.

代田幸博(発表), 竹田康人, 方堂祐治, 若林時夫:経乳頭的胆嚢ステント留置術により経皮経肝胆嚢ドレナージの抜去が可能となった胆嚢管結石嵌頓の一例, 第121回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 令和5年11月16日, 石川県河北郡.

吉江雄一(発表), 小坂一斗, 松井修, 松原崇史, 五十嵐沙耶, 米田憲秀, 北尾梓, 蒲田敏文, 小林聡, 竹田康人, 方堂祐治, 代田幸博, 若林時夫, 上田善道:胆道粘液癌からの石灰化を伴う癌性リンパ管症と考えられた一例, 第36回日本腹部放射線学会, 令和5年6月, 仙台市.

吉江雄一(発表), 代田幸博, 上田善道:診断に難渋した胆管周囲付属器腺由来と推察された肝外胆管癌の1例, 第59回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 令和5年9月, 徳島市.

竹治明梨(学会発表), 水島伊知郎, 川野充弘:シェーグレン症候群において高 IgG 血症が経過中の腺外病変発症に及ぼすリスクの影響, 第67回日本リウマチ学会総会学術集会, 令和5年4月26日, 福岡県福岡市.

竹治明梨(学会発表), 堀田成人, 藤澤雄平, 水島伊知郎, 川野充弘:甲状腺機能低下症の合併がシェーグレン症候群の腺外病変に及ぼす影響についての検討, 第31回日本シェーグレン症候群学会学術集会, 令和5年9月23日, 静岡県浜松市.

竹治明梨(座長):関節リウマチ治療戦略~TNF 阻害薬と JAK 阻害薬を中心に~, JOY in KANAZAWA 2023, 令和5年10月29日, 石川県金沢市.

西江緑(発表):金沢眼科集談会, 令和5年12月, 金沢市.

藤澤雄平(学会発表), 竹治明梨:高齢発症成人 still 病にトシリズマブ投与後 MAS を発症した一

例、第 67 回日本リウマチ学会学術集会・総会、令和 5 年 4 月、福岡。

藤澤雄平(学会発表)、竹治明梨:後期高齢発症リウマチ性多発筋痛症の臨床的特徴、第 67 回日本リウマチ学会学術集会・総会、令和 5 年 4 月、福岡。

藤澤雄平(学会発表)、竹治明梨:血系透析患者に合併した寒冷凝集素症に対してスチムリマブで改善した一例、第 68 回日本透析学会学術集会・総会、令和 5 年 7 月、神戸。

藤本彩:入院し血糖コントロール、免荷を行うことで改善した足底難治性糖尿病潰瘍の 1 例、第 97 回日本糖尿病学会中部地方会、令和 5 年 9 月、名古屋市。

谷口民子(発表)、山岸愛(共同演者)、川北整(共同演者):転倒転落インシデントデータを基にした転倒転落予防対策フローチャートの作成、転倒転落予防学会、令和 5 年 10 月、京都府。

袋真悠子:COVID-19 に罹患した若年成人がん患者との面会制限下での関わりと支援、第 16 回看護実践学会学術集会、令和 5 年 9 月 23 日。

筆可菜子:新型コロナウイルス感染症が当院看護師にもたらす影響について～メンタルヘルスケアを含む院内体制の構築にむけて～、第 16 回看護実践学会学術集会、令和 5 年 9 月 23 日。

森戸敏志(講師):金沢大学薬学類キャリア形成概論、令和 5 年 6 月、金沢市。

森戸敏志(講師):石川県病院薬剤師会 新任薬剤師研修会、令和 5 年 7 月、金沢市。

森戸敏志(座長):2023 年度 第 II 期 北陸大学薬局実務実習学生発表会、令和 5 年 6 月、金沢市。

森戸敏志(大会長):日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会、令和 5 年 11 月、金沢市。

森戸敏志(座長):irAE Management Seminar、令和 5 年 11 月、金沢市。

森戸敏志(座長):金沢大学附属病院薬剤部 特別講演、令和 5 年 12 月、金沢市。

森戸敏志(講師):薬系大学 病院薬剤師に関する講演(北陸大学)、令和 6 年 2 月、金沢市。

森戸敏志(ファシリテーター):石川県糖尿病療養指導士研究会症例検討会、令和 6 年 3 月、金沢市。

後藤義之(演者):第 33 回日本医療薬学会年会令和 5 年 11 月 仙台市。

後藤義之(座長):第 33 回日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会令和 5 年 11 月 金沢市。

島崎沙織(講師):北陸大学フレッシュマンセミナー2023、令和 5 年 4 月 金沢市。

島崎沙織(講師):(公社)石川県薬剤師会 PS 講座イノベーション 5 月、令和 5 年 5 月 金沢市。

島崎沙織(講師):糖尿病診療を考える会 in 能登～DUAL Seminar in 能登～、令和 6 年 3 月 金沢市。

梅下翔(講師):第 3 回 ISPEC セミナー2023 夏の陣～肝臓について薬学的視点で考える～、令和 5 年 7 月 28 日、金沢市(Web 開催)。

梅下翔(講師):薬剤師「らしく」人が人をケアすることについて考えてみた、第 37 回北國がん基金啓発活動部門「医療者によるがん緩和医療に関わる薬剤師の支援」、令和 5 年 11 月 19 日、金沢市(Web 開催)。

梅下翔(講師):がん緩和薬物療法各論～薬理作用、ガイドラインから考える個別化医療～、(公社)石川県薬剤師会 PS 講座イノベーション 11 月、令和 5 年 11 月 26 日、金沢市(石川県薬剤師研修センターおよび Web 開催)。

梅下翔(講師):痛いのはいやなんです、石川県がん安心生活サポートハウス おくすりカフェ、令和 5 年 12 月 11 日、石川県金沢市。

谷本百恵(演者):第33回日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会,令和5年11月 金沢市.

松岡未紗(講師):石川県病院薬剤師会 新任薬剤師研修会, 令和5年7月, 金沢市.

下郷遥(発表)、宮田寛子、西知子、森健太郎、出口美由樹、三秋泰一:松葉杖完全免荷歩行に影響を与える運動学的因子の検討、第39回東海北陸理学療法学術大会、令和5年9月30日-10月1日、小松市.

渡辺航平(発表)、森健太郎、橋場照人:歩行練習の条件設定に難渋した脚長差のある左片麻痺の一症例～屋外T字杖歩行自立を目指して～、第39回東海北陸理学療法学術大会、令和5年9月30日、10月1日、小松市.

米倉佐恵(発表)、宮田寛子、盛岡哲也、鹿間唯菜:超高齢者の経カテーテル大動脈弁置換術後患者における理学療法評価について、第39回東海北陸理学療法学術大会、令和5年9月30日、10月1日、小松市.

森健太郎(司会):エコーを活用した膝内側部・外側部の診断と治療、石川県理学療法士会学術局主催研修会, 令和5年9月14日, 金沢市.

森健太郎(座長):セレクション発表【運動器】、第39回東海北陸理学療法学術大会, 令和5年9月30日、10月1日, 小松市.

森健太郎(司会):教育講演⑩【運動器】、第39回東海北陸理学療法学術大会, 令和5年9月30日、10月1日, 小松市.

森健太郎(講師):肩の理学療法 解剖など基礎から局所、全身の評価と治療、福井県理学療法士会 奥越・坂井合同ミニ学会 特別講演, 令和5年11月26日, 福井県坂井市.

森健太郎(司会):股関節機能障害に対する理学療法戦略、石川県理学療法士会学術局主催研修会, 令和5年12月14日, 金沢市.

岡村美祐(発表)、森健太郎、出口美由樹、浜川健:成人still 病により起立動作困難を認め、自宅退院に向けて介入を行った一症例、第6回済生会リハビリテーション研究会、令和5年11月, 金沢市.

岡嶋早春(発表)、山本愛佳、中西泰志、野田奈々絵、岸谷都:失語症者に対する、退院後の活動・参加を見据えた関わり、回復期リハビリテーション病棟協会研究大会 in 熊本, 令和6年3月8日、熊本市.

太田大樹(発表)、岸谷都、西谷厚、平島奈央子、坂本南奈:重度プッシュャー症状を呈する片麻痺患者の上腕二頭筋に電気刺激療法を行い、座位保持獲得を目指した症例～シングルケースデザインを用いて～、第31回石川県作業療法学会, 令和5年6月24日, 金沢市.

浜川健(講師):ジョブカフェいしかわ 内灘高校1年生20名程度に対して作業療法の仕事内容紹介、石川県作業療法士協会、令和5年9月27日, 金沢市.

小池真希(シンポジスト):2023年度石川県立中央病院地域連携交流会 令和5年12月, 金沢市.

矢野根滋明(講師):シャントエコーハンズオンセミナー, 令和5年11月25日, 金沢市.

小川和俊(パネリスト):各施設における手術業務の現状とスコープオペレーターの今後について、石川県臨床工学技士会主催 第12回ME研修会, 令和5年7月, 金沢市.

宮下未紗(発表・口演):地域におけるフットケア指導士の役割～出前健康講座を通して～ 第3回日本フットケア・足病医学会 東海・北陸地方会学術集会 令和5年10月7日, 富山県富山市.

古矢泰子(発表):第22回日本訪問リハビリテーション協会学術大会,令和5年5月,愛知県.

野田祐輔(発表):第6回済生会リハビリテーション研究会,令和5年11月,金沢市.

山本愛佳(シンポジスト):第6回済生会リハビリテーション研究会,令和5年11月,金沢市.

4. その他

袋真悠子:COVID-19に罹患した若年成人がん患者との面会制限下での関わりと支援、第76回済生会学会, 令和5年1月28日.

筆可菜子:新型コロナウイルス感染症が当院看護師にもたらす影響について～メンタルヘルスケアを含む院内体制の構築にむけて～、第76回済生会学会, 令和5年1月28日.

森戸敏志(臨床准教授):金沢大学医薬保健学域薬学類, 令和5年度.

森戸敏志(会長):石川県病院薬剤師会, 令和5、6年度.

森戸敏志(常務理事):公益社団法人石川県薬剤師会, 令和5、6年度.

森戸敏志(職域委員):石川県糖尿病対策推進会議, 令和5年度.

森戸敏志(職域委員):一般社団法人薬学教育協議会北陸支部, 令和5、6年度.

後藤義之(試験問題作成委員):日本緩和医療薬学会、令和5年度.

梅下翔(オブザーバー):第27回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ, 令和5年5月4-5日、北陸大学薬学キャンパス.

梅下翔(タスクフォース):第28回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ, 令和5年5月13-14日、北陸大学薬学キャンパス.

梅下翔:石川県病院薬剤師会理事(庶務担当:事務局) 令和5、6年度,石川県病院薬剤師会庶務担当理事として、2024/1/1～3/26 病院薬剤師支援活動に従事.

【院内研究発表会】

手術室に配属となった外国人看護師の思い

看護部 診療支援部 ○地黄伸子 廣川望美

【目的】

2022年4月に当院において初めての外国人看護師が採用され、手術室に配属後約2年が経過した。日本において、療養型の病院や訪問看護の経験はあるものの、より専門的な知識や特殊な技術を要し、緊張度の高い手術室という環境の中で感じた困難とその対処法や思いを明らかにし、今後の教育および次の外国人看護師採用時の教育に活かすことを目的とする。

【方法】

外国人看護師A氏に対し、インタビューガイドを用いた半構成的面接を行った。(倫理的配慮) 研究参加、協力は自由意志であり、データ、音声は研究の目的以外では使用しないこと、当院には現在外国人看護師は1名しかいないため、個人が特定される可能性があるが、それによって対象者が不利益を被ることが一切ないように配慮すること、研究参加に同意した場合でも、途中で中断することが可能であることを口頭、書面で説明し同意を得た。

【結果】

「学習方法」「指導方法」「コミュニケーション」の項目において、外国人特有の返答がみられたが、いずれも言語に関わる点では共通していた。日本で働けるレベルの日本語能力を有していても、流れる会話や指示、医療・専門用語においては読み書き、特に聞き取りが困難であることがわかった。「手術器械の覚え方」「手術時の緊張」「手術室で困難に感じる事」に関しては、日本人看護師と同じ思いであることがわかった。

【結論】

外国人看護師にとって、コミュニケーションに不安を感じていることは様々な文献で示唆されており、A氏においても同様であることがわかったが、「手術室」という環境が影響するものではなかった。個人の日本語能力やコミュニケーションで苦手を感じることを把握し、それに合わせた指導方法を検討することが重要であり、今後の外回り看護に向けてスタッフとの会話を通しての日本語能力向上は必須である。また、コミュニケーションの問題以外に感じる手術室業務に関する困難は、日本人の新人看護師と同様であることがわかったため、経験や困難に応じた支援を行っていく必要がある。

早朝採血削減プロジェクト
～看護師と臨床検査技師のタスクシフト/シェア～

(1) 検査部 (2) 看護部

○竹田ひとみ⁽¹⁾ 青山利枝⁽¹⁾ 大谷しのぶ⁽²⁾ 亀田 真規子⁽²⁾

【目的】

2024年4月から施行されている医師の働き方改革を目的に医療関係職種の業務範囲を見直し「タスクシフト/シェア」が推進されてきた。当院でも2021年職員負担軽減委員会にて検討が始まり、臨床検査技師に何ができるかを考え、常に人員不足となっている看護師の負担を減らすため、早朝採血を減らし、日中に検査技師が病棟で採血をすることを目標とし、実施までのプロセス、結果を報告する。

【方法】

令和5年6月に看護部業務委員会と検査部による「早朝採血を削減したい！」検討会を設置した。話し合いを重ね、2023年9月から検査技師が急性期病棟4B病棟の日中の採血を実施することになった。早朝採血削減ためには、医師の協力が必要だったため、診療部会議にて「患者と看護師の負担権限のために」と協力をお願いした。早朝採血のオーダー時には「☆早朝採血☆」のコメントを入れてもらうことにした。前日の採血管準備で技師が仕分け、病棟で看護師が確認し患者の注意事項を帳票に記入、採血担当検査技師はその情報をもとに採血を実施し採血結果は12時までに報告できるようにした。12月から急性期病棟4A病棟でも検査技師が採血をすることとした。

【結果】

検査技師の病棟採血を4B病棟と4A病棟で実施した結果、早朝採血は65%～70%削減された。それによって看護部からは深夜帯看護師の負担が減ったこと、朝の患者さんのケアに集中できるようになったこと、患者さんの早朝に起こされる苦痛が減ったこと、検査部内では病棟に行くことで、病棟看護師の業務を知ることができたこと、視野が広がること、検査技師の夜勤者の早朝業務の負担削減、検査の知識により、検体量や保存方法などのインシデントの削減につながっていることなどが効果としてあげられた。問題点としては、病棟で看護師に声をかけづらいこと、注意事項の記載がない場合があり情報共有がしにくいことなどがあげられた。医師からは特に問題提起はなかった。

【結論】

今回のプロジェクトにより看護師の負担軽減という目標は達成され、患者の苦痛の軽減、採血に関するインシデントの削減にもつながった。今後は、他の病棟への拡大、看護師と検査技師の横のつながりをさらに円滑にしていくにはどうすればよいかといった課題に取り組む必要がある。しかし、検査部内では業務拡大による人員確保やシフト調整が難しく今後に対する不安の声もある。タスクシフト/シェアとは、病院全体でコミュニケーションをはかり、お互いを思いやり助け合い尊

重し合う関係性をもとに仕組みを作ること、患者の利益や職員の利益につながるのではないかと考える。

認知機能低下を呈した患者に対する自動車運転評価の現状と課題

リハビリテーション部 作業療法士 平島奈央子

【はじめに】

近年高齢ドライバーによる交通事故が社会問題となっている。現在日本では、認知症と診断がついた場合には運転免許は取り消しとなるが、軽度認知障害（以下 MCI）は法律上運転可能である。しかし MCI は認知症への移行率が年間 10～15%と言われており、警視庁では早期発見を啓蒙している。当院作業療法部門では MCI の自動車運転評価を行う事が増えており現状と課題について報告する。

【評価の流れ】

自動車運転に不安があると声が挙がった患者に対して、本人または家族の了承を得て評価を実施する。運転の可否によっては QOL が低下し本人や家族とトラブルになる事もあるため、評価前に面接をし運転の用途や今後の意向等を聞き取る。評価結果を主治医またはリハ医に報告し IC を行う。対応が難しい患者は OT や MSW 等の多職種、家族も同席で IC を行う。運転が困難となった場合は代替手段についても提案する。

【評価方法】

神経心理学的検査、自動車シミュレーション、生活の様子、脳画像等を総合的に見て評価する。

【事例紹介】

事例 1：70 歳代男性。左大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術後。杖歩行自立。生活場面では脱臼予防動作や約束を覚えられない、会話が成立しない等のエピソードあり。注意や記憶の検査で低下を認めた。妻からは元々免許返納を考えていたが本人が言う事を聞かず困っていたと話あり。本人家族と多職種で IC を行い、評価結果や今後の生活について話し合ったところ、「主治医の言う事なら仕方ない」と本人が納得され円滑に免許返納の手続きにつながった。

事例 2：60 歳代男性。既往歴に脳出血左片麻痺、慢性腎不全があり人工透析を受けていた。今回は膿胸にて入院。独歩自立。生活場面では反応が遅い、難易度の高い会話の理解に時間を要す等のエピソードあり。注意や構成課題の検査で低下を認めた。独身独居で頻繁に頼れる家族はいなかった。リハ医、OT、退院支援 Nrs にて介護保険の申請や地域包括支援センターの自宅訪問による相談を提案したが、「運転はまだ出来る、一人で市役所に行って相談する」と主張され、それ以上の介入は困難であった。

【考察】

MCI は自動車運転可否の明確な基準がなく、明らかに運転に支障があるとまで言えず運転中断を説得出来ない場合もあるとされている。医療者はあくまでも助言をする立場という事を念頭において支援し、その経過をカルテに記載しておく事が重要と思われる。また、一人一人、性格や自身

を取り巻く環境が異なるため、個人に合わせた説明、対応が必要である。

病棟採血業務のタスクシフト／タスクシェア

看護部 大谷しのぶ 浅野幸恵

【目的】

タスクシフト／シェアの推進による医療スタッフの業務軽減、安全な医療の提供を目的に、採血時間の見直し・検査技師による病棟採血の介入を行う。

【方法】

1. 検討会の開催（方法の具体化、予測される問題点の共有、問題解決にむけた検討）
2. 医師への協力依頼（部長会、メール配信、掲示、声掛け）
3. スタッフへの周知（検査技師、病棟スタッフ）
4. トライアルの実施（2023年9月4日～）
5. アンケートの実施（トライアル後1ヶ月目）

【結果】

採血件数が多い4B病棟からトライアルを開始した。医師には、早朝採血が必要な場合にコメント入力が必要であることを周知した。トライアル開始1か月目、早朝採血の割合は全体の約2割、2ヶ月目以降は4割に増加した。

採血時間の割合は、早朝32%・日勤65%・その他（TDM・負荷試験などの時間指定採血、HDにて採血、緊急採血、交差血など）3%となった。採血担当者の割合は深夜看護師33%・日勤看護師8%・検査技師59%となった。採血数は日勤採血導入前後では、平均12.9人/日から7.2人/日に減少した。

病棟スタッフのアンケート結果から、深夜看護師の負担は心身ともに軽減し、ラウンド開始時間が5時半から6時に変化したことで患者への負担は軽減した。

【結論】

採血時間の見直しを行い、患者の負担は軽減した。深夜看護師の業務が軽減したことで患者対応の時間が増えた。懸念していた日勤看護師の負担の増加はなく検査技師と協力して行えた。早朝採血件数の減少によって当直検査技師の業務は減少した。タスクシフト／シェアにより医療スタッフの業務軽減、安全な医療の提供につながった。

【おわりに】

病棟採血業務のタスクシフト／シェアにより、スタッフの業務軽減、安全な医療の提供につながった。採血業務見直しにあたり近隣病院を調査したところ早朝採血を行っている病院がほとんどであった。日勤にシフトした病院はあるが検査技師が病棟に採血に来る病院はなかった。近隣のどの病院よりも他職種の協力が得られていることに感謝している。今後も患者・医療スタッフが安心して医療が受けられ提供できる体制作りを目指していきたい。

【第 76 回済生会学会 発表論文】

令和 6 年 1 月 28 日（日）

会場： 熊本城ホール

発表論文	部署	発表者
新型コロナウイルス感染症が当院看護師にもたらす影響について	看護部	筆 可菜子
COVID-19に罹患した若年成人がん患者との関わりを振り返って	看護部	袋 真悠子
最新 CT 装置における金属アーチファクト低減技術 SEMER の有効性	放射線部	永井 有沙

【看護部事例発表会】

令和5年12月15日(金) 13時30分～16時00分

於：第1討議室

NO.	発表名	病棟・発表者
1	失行症を持つ患者の排泄動作自立に向けた関わり方	3B病棟 下田彩月
2	終末期患者・家族の意思決定支援を通して学んだこと	4A病棟 湖山衣実莉
3	せん妄状態にある患者の援助を通して学んだこと	4A病棟 関野ひかる
4	疼痛や不安により離床が進まなかった患者との関わり方を振り返って	4B病棟 佐藤波音
5	終末期患者と家族の治療に対する思いの相違 ～本人が望む最期のあり方への関わり方～	4B病棟 清水由佳
6	せん妄を繰り返す患者が安全・安楽に入院生活を過ごすためには ～慢性心不全患者との関わりを通して～	5A病棟 木村日向
7	離床に消極的な患者への自己効力感を高める看護の振り返り	5A病棟 高頭凜
8	寄り添う看護を振り返って ～患者の心理的变化と看護～	5B病棟 多河帆乃佳
9	外国人患者の周術期看護を振り返って	診療支援部 ジョハン ハリアント
10	白内障手術を受ける患者との関わりを振り返って ～不安緩和への看護～	診療支援部 細川航希